経営戦略を聞く

中外炉工業 尾崎彰社長

CN市場創出 最大の使命

水素・アンモニアバーナー拡充

中外炉工業は、工業炉用水素バーナーやアンモニア燃焼バーナーなどの研究開発を一段と加速させている。強みを持つ熱技術を活用した同社の新商品・新技術は急速に拡大する半導体や電気自動車（EV）関連市場に対応するとともに、鉄鋼業の脱炭素化につながるものとして大きな期待が集まる。「カーボンニュートラルへの取り組みは工業用炉メーカーとして最大のミッションであり責務だ」と話す尾崎彰社長に足元の事業環境や今後の方針を聞いた。

――2024年3月期を振り返って。

「機械部品や電線などの調達が想定よりも遅れたことから期初の計画には届かなかったが、3期連続の増収増益を確保することができた。既存のプラント事業となる鉄鋼業向け設備の増設・更新需要に加えて、半導体に使用されるグラファイト（黒鉛製品）の製造設備向けなど熱処理事業の新分野が伸びた」

――25年3月期では4期連続の増収増益を目指す。

「EV需要の高まりも収益拡大につながっている。EVに搭載される『eアクスル』モーターや減速機などが組み込まれている駆動装置）の強度向上などには熱処理が欠かせない。さらにリチウムイオン電池の製造やリサイクルでも熱処理技術が活用されると期待している。また、将来に向けた開発事業の赤字幅が前期で大きく縮小した。これは研究開発や新商品の市場投入が一段と進んだということ。早ければ今期中にも開発事業の黒字転換を達成したい」

――海外売上比率も高まっている。

「電子部品や自動車関連向けに海外の受注が増加しているが、事業ポートフォリオとしては海外売り上げに依存せず、特に新分野はまず国内市場向けに拡大していくことを想定している。ただ、東南アジアやインドなど鉄鋼需要の伸びが期待される国・地域向けにはカーボンフリーの前段階として、リジェネバーナーなどカーボンレスにつながる商品・技術の需要が見込まれるだろう。また、主力拠点のある堺市がベトナムで電炉などの産業が集積するバリアブンタウ省と環境分野における国際都市間協力を実施しており、当社も前向きに協力していきたいと考えている」

――昨年11月には熱技術創造センターが完成した。

「カーボンニュートラルを中心とした新市場の創出を目指し、約13億円を投じて立ち上げた。CO_2を排出する工業炉用メーカーとして取り組むべき最大のミッションであり、アンモニアバーナーの実用化と水素バーナーのラインアップ拡充を急ぐ。アンモニア・水素燃料の安定供給やコスト面などの課題はあるが、実用化に向けて大きな手応えを感じている。安心してアンモニアバーナーを使用してもらえるよう、現在は加熱炉内に残留したアンモニアが素材や耐火物に影響を与えないかなどの研究を進めている段階。NEDOに採択された製造分野における熱プロセスの脱炭素化のグリーンイノベーション基金事業のほか、水素還元製鉄の実現に向けた研究開発にも一段と注力していく方針だ」

――業務効率化や人材確保・育成にも力を入れる。

「約15億円かけて効率化につながるシステム改善などに取り組んでいる。設計や調達システムの標準化・最適化を図る。生産性向上の指標として、1人当たりの営業利益と総実労働時間の目標も掲げた。人材確保に向けた取り組みも強化しており、新入社員、さらに現社員の奨学金の半分を会社で負担することを決めたほか、26年3月には堺駅前に社員寮を新設する。約450人の社員のうち、200人以上が設計などエンジニアで占める。つまり人材の企業。今後も人的資本に積極的に投資し『働きがいのある職場』づくりを進めていく」（早間 大吾）